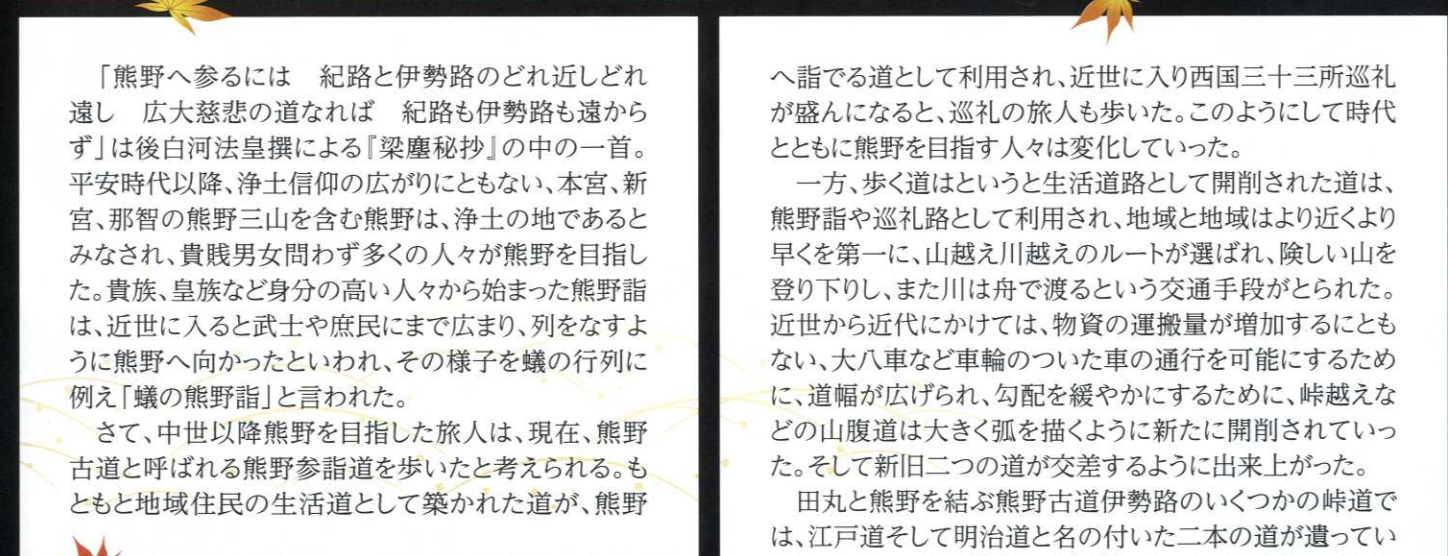




急傾斜の江戸道(始神峠道)



緩やかな勾配の明治道(始神峠道)



江戸道と明治道の分岐(始神峠道)

# 熊野への道

～時代とともに変わる道～

「熊野へ参るには 紀路と伊勢路のどれ近しどれ遠し 広大慈悲の道なれば 紀路も伊勢路も遠からず」は後白河法皇撰による『梁塵秘抄』の中の一節。平安時代以降、浄土信仰の広がりとともに、本宮、新宮、那智の熊野三山を含む熊野は、浄土の地であるとみなされ、貴賤男女問わず多くの人々が熊野を目指した。貴族、皇族など身分の高い人々から始まった熊野詣は、近世に入ると武士や庶民にまで広まり、列をなすように熊野へ向かったといわれ、その様子を蟻の行列に例え「蟻の熊野詣」と言われた。

さて、中世以降熊野を目指した旅人は、現在、熊野古道と呼ばれる熊野参詣道を歩いたと考えられる。もともと地域住民の生活道として築かれた道が、熊野

へ詣でる道として利用され、近世に入り西国三十三所巡礼が盛んになると、巡礼の旅人も歩いた。このようにして時代とともに熊野を目指す人々は変化していった。

一方、歩く道はというと生活道路として開削された道は、熊野詣や巡礼路として利用され、地域と地域はより近くより早くを第一に、山越え川越えのルートが選ばれ、険しい山を登り下りし、また川は舟で渡るといった交通手段がとられた。近世から近代にかけては、物資の運搬量が増加するにともない、道幅が広げられ、勾配を緩やかにするために、峠越えなどの山腹道は大きく弧を描くように新たに開削されていった。そして新旧二つの道が交差するように出来上がった。

田丸と熊野を結ぶ熊野古道伊勢路のいくつかの峠道では、江戸道そして明治道と名の付いた二本の道が遺っている峠がある。これは前述した新旧のルートで、荷坂峠道や始神峠道などでは今もその遺構が見られ、世界遺産を体感するため多くの人々が歩いている。

かつては数十日と費やした熊野への旅も、車社会の到来で橋やトンネルが構築され、目的地まで数時間で行くことができる。多くの人はその橋の下やトンネルの上には、古の道が通っていることさえ知らない。時間に余裕のない現代に生きる人々。熊野の大自然の中に身を置き、風を感じ、森の香りを味わい、広大慈悲の道で癒されるのも良いかもしれない。

江戸道と明治道が交差する(荷坂峠道)



## 熊野古道からのてがみ

熊野古道から  
のてがみ  
48 通目



熊野古道伊勢路が世界遺産に登録され、多くの人が熊野古道を訪れ、近頃では外国の方々も見かけるようになりました。日本語をあまり理解されない人でも古道を歩いておられます。旅の楽しみの一つは人々との触れ合いだと思います。古道を歩いておられる人に気軽に声をかけてみてはいかがですか。外国の方にも日本語で声をかければ、何かのきっかけになるのではないのでしょうか。

くても木によじのぼる仕組みをもっています。

センニンソウは漢字で仙人草と書きますが、仙人草の名は実ったセンニンソウの綿毛を、仙人の白い毛と見たたものだと言われています。センニンソウは有毒植物で食べると危険です。

鹿児島県では馬が食べると、馬の歯が落ちるといいます。鳥取県では、このセンニンソウを他の草に混ぜて牛に与えても食べないで「ウシクワズ」という方言もあります。センニンソウの仲間に紀伊半島の和歌山県南部、三重県南部に自生する「キイセンソウ」が分布しています。このキイセンソウは、限られた場所に生える貴重な植物です。

熊野古道伊勢路が世界遺産に登録され、三重県でも外国の訪問者の増加に対応するために「英語の熊野古道語り部養成」の講座をいち早く開催していただき、15年ほど続いております。現在も行われております。馬越峠、八鬼山峠、新鹿、波田須、観音道、松本峠、花の窟、通り峠、丸山千枚田と研修が終わり、今年度は、ツツラト峠を予定しています。参加しておられる皆様から熊野古道の事を色々教えてもらいました。日本語のテキストを読み、英語で表現できるようにし、テキストを見ずに説明できるのが最初のゴールでした。なかなか骨の折れることでしたが、参加した皆さんと楽しく練習できました。覚えたいことはしばらくすると忘れてしまいがち、また覚えなおしの繰り返しです。



次は紀北町の  
三宅一成さん  
熊野古道語り部友の会幹事

私にとつての熊野古道の楽しみは語り部をすること。色々な人と出会うこと、語り部をするための準備作業が楽しいです。語り部の方々との出会い、東紀州全般に活動しておられる人々と知り合えたことです。楽しみであり宝物です。

## 花尻 薫からの季節のたより No.48

山野や道端など、日当たりの良い場所に生えるセンニンソウは、つる状のびるつる植物であります。

北海道南部から本州・四国・九州・中国・台湾に分布する広範囲の植物です。熊野古道沿いでは、いたるところに、つるを伸ばし高い木にたどりつきます。開花は夏の終わりの頃から秋にかけて、多数の白い花を咲かせます。センニンソウの特長は葉の柄にあります。葉の先に何枚かの小さな葉をまばらにつけながら、曲がりくねった柄が特異な姿になり、固いものに触れると長くなり、巻きついています。巻き上げがな



センニンソウ  
キンポウゲ科

### センター敷地内「夢古道おわせ」

お母ちゃんのランチバイキング  
 営業時間 11:00～14:00  
 料金 中学生以上 1,200円  
 小学生以上 700円  
 4歳～小学生 300円  
 4歳未満 無料  
 60歳以上 1,000円

### みえ尾鷲海洋深層水「夢古道の湯」

深海415メートルから取水された海洋深層水のお風呂。  
 ミネラル分が豊富で保温性に優れているので、湯上がり後もポカポカです。  
 開館時間 10:00～21:00  
 入浴料 一般 600円  
 65歳以上 500円  
 4歳～小学生 300円  
 4歳未満 無料

お風呂あがりは、カフェでゆったり♪  
 営業時間 9:00～17:00  
 カフェオナー 16:30  
 土日祝のみ16:00から「おわせ塩ラーメン」やってます！  
 毎月26日は風呂の日 お子様は通常300円が100円でご入浴できます。



●お車で越しの方は...  
 尾鷲北IC→坂場交差点を直進→「ホテルピオラ」さんがある交差点を右折→しばらく熊道を海沿いに走り、案内看板を右折して到着です。(尾鷲北ICから約10分)

●電車でお越しの方は...  
 JR尾鷲駅下車→ふれあいバス「尾鷲駅」バス停(徒歩1分)、または三重交通「尾鷲駅」バス停(徒歩5分)乗車→「熊野古道センター」前下車→松阪駅  
 →南紀特急バス「熊野古道センター」終点下車(約2時間)

### 熊野古道センターからのてがみ

●2018年 秋号●

- 発行日:2018年9月11日(季刊)
- 編集・発行:三重県立熊野古道センター(三重県指定管理者 NPO法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク)
- 編集担当:玉村
- 連絡先:〒519-3625 三重県尾鷲市向井12-4  
TEL 0597-25-2666  
FAX 0597-25-2667  
Mail info@kumanokodocenter.com
- 開館時間:午前9時～午後5時
- 入場料:無料
- 休館日:12月31日、1月1日(その他メンテナンス時休館)

熊野古道センター 検索  
 ホームページ  
<http://www.kumanokodocenter.com/>  
 60000180911AT

熊野古道 伊勢路 通行止め一部解除のお知らせ  
 熊野古道伊勢路「横垣峠道」の一部(水壺地蔵～横垣峠)は通行が解除となりました。  
 ●詳しくは御浜町教育委員会 TEL.05979-3-0526までお問合せください。

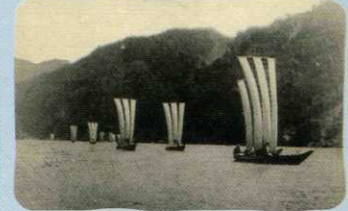
古写真をお貸しください  
 企画展 「知られざる熊野のダム ～北山川水系・銚子川水系の水力発電を科学する～」  
 (会期:12月22日～2月17日)に展示する古写真をお貸しください。  
 小森、七色、池原、坂本ダムの湖底に沈む前の風景写真や集落写真または建設中に撮影した当時の写真などお持ちでしたら、当センターまでご連絡ください。  
 池原ダムによる水没前の前鬼口の新しい橋と道路

その他  
**Guide&Tips**

企画展 **熊野川交通**  
川舟の変遷と水運の歴史

川の道として山間部と河口部を行き来する唯一の交通手段であった時代から現在の観光遊覧としての利用まで、熊野川流域の人々をつないできた水上交通の歴史についてご紹介いたします。

会期 **10/20土・12/9日**  
時間 午前9時～午後5時  
場所 企画展示室  
入場料 無料



付属事業① 講演会 **熊野川交通の昔と今**  
生活、巡礼、産業の交通機関として、かつて様々な船が熊野川を行き交いました。熊野川流域において重要な役割を担った水上交通の変遷について、今昔写真を紹介しながら解説します。

受付期間 **9/20(水)～10/19(日)** 午後5時まで  
日時 **10/20土**  
時間 午後1時30分～3時  
参加料 無料  
定員 80名(要申込・先着順)  
会場 映像ホール  
講師 中瀬古 友夫氏(熊野学研究会)

付属事業② 熊野川 **体感 川舟下り**  
かつて川の参詣道として熊野詣の旅人が熊野川を舟で下りました。往時の旅人が見た水上からの風景を見ながら三反帆の川舟下りを体感していただきます。

受付期間 **10/3(水)～10/27(土)** 午後5時まで  
日時 **11/3土**  
時間 午前9時～正午  
参加料 3,500円(保険料・乗船料込)  
定員 20名(要申込・応募多数の場合抽選)  
雨天の場合は11/4(日)に順延  
会場 熊野川下流  
集合場所 熊野川体感塾(三重県熊野町紀伊北陸枝)  
講師 熊野川体感塾スタッフ  
谷上 嘉一氏(川舟大工)

特別展示室 企画展 **紀伊長島 郷土資料室 館蔵品展**  
明治から昭和初期にかけての紀伊長島の商業に関わる道具や資料などを展示します。

受付期間 **9/15(土)～11/18(日)**  
時間 午前10時～午後5時  
会場 特別展示室  
入場料 無料

特別展示室 企画展 **透明水彩画 スケッチツアー作品展**  
東紀州の風景をスケッチする「透明水彩画スケッチツアー～熊野を描く」の成果発表として、参加者が描いた作品を展示します。作品だけではなく、スケッチツアーの様子も紹介します。

受付期間 **12/1(土)～1/20(日)**  
時間 午前10時～午後5時  
参加料 無料  
定員 20名(要申込・先着順)  
雨天の場合は12月31日及び1月1日は休館  
会場 特別展示室

ハイキング 役立つ知識 **足のつり**  
「こむら(ふくらはぎ)がひっくり返るような痛み」であることから「こむらがえり」ともいいます。テントや山小屋泊、自宅での就寝時でも、足がつることがあります(知らないうちに脱水状態に)。漢方薬「芍薬甘草湯」は、けいれんを鎮め、痛みを止める作用があります。即効性もありがたいところです。かかりつけの医師に相談し処方してもらおうのが安心です。

和歌山県 **世界遺産センター** からのお知らせ  
真夏の厳しい日差しも和らぎ、秋の気配が感じられる季節となりました。今夏も熊野古道へ国内外から多くの方がお見えになり、当センターもご利用いただいております。6月から8月には下記のように多数の団体の皆様にご参加いただきました。世界遺産は顕著な普遍的価値を持ち、「人類共通の宝物」といわれます。世界遺産を通して人々が交流し、文化や価値観の多様性を認識し合うことで、平和へつなげることも世界遺産の大切な役割の一つです。その世界遺産の一つ「紀伊山地の霊場と参詣道」の「良好な保全」及び「適切な活用」が円滑に進むよう、当センターでは「世界遺産セミナー」を開催しています。7月1日開催の第2回世界遺産セミナーでは「佐藤春夫の文学世界と熊野」について、9月2日開催の第3回世界遺産セミナーでは「天野と西行」について講演を行い、多数のご参加をいただきました。9月からは次世代育成事業として、和歌山県下から応募いただいた小中学校25校を対象に世界遺産学習を実施します。

●参詣道保全活動及び世界遺産セミナーに関するお問い合わせは、和歌山県世界遺産センター(0735-42-1044)までお願いいたします。

平成30年度 **第4回世界遺産セミナー** (予定) **参加費 無料**  
日時 **12/9(日)** 13:00～15:00  
内容 世界遺産の新しい動きとその継承  
講師 辻林 浩(和歌山県世界遺産センター長)  
場所 すさみ町総合センター(和歌山県西牟婁郡すさみ町周参見4120-1)

「道普請」とは 文化財保護専門職員による指導のもと、参詣道の保全活動(土入れ・割溝清掃等)を行っていただくものです。ボランティア活動・CSR活動として、毎年、多くの皆さまに参加していただいております。

平成30年6月～8月の道普請参加団体(敬称略)  
道普請前 道普請後

参詣道保全活動(道普請)及び世界遺産セミナーに関するお問い合わせは **和歌山県世界遺産センター TEL.0735-42-1044** までお願いいたします。  
住所:和歌山県田辺市本宮町本宮100-1 FAX:0735-42-1560 E-mail:e0624002@pref.wakayama.lg.jp

講座・講演

9/29(土)・10/6(土) 連続講座 **秋季 初心者のための山歩き入門**  
小中学生や登山の経験が少ない方、熊野古道センター主催の山歩きのイベントに興味があるが、体力に自信がなく参加を迷っているという方のための山歩き講座を開催します。

時間 第一回/午前10時～午後3時 第二回/午前9時～午後2時  
参加料 200円(資料代・保険料として初回のみ)  
●第二回は別途バス運賃300円が必要となります。  
受付期間 **8/29(水)～9/22(土)** 午後5時まで  
定員 15名(要申込・応募多数の場合抽選)  
対象 小学生以上  
場所 第一回/体験学習室 第二回/観音道(JR大泊駅集合)  
講師 熊野古道センター事業部 主任コーディネーター 宮本 秀男(日本スポーツ協会山岳上級指導員)



10/7(日) **今比丘尼が 絵解く曼荼羅図**  
中世・近世において、曼荼羅を携え布教と勧進のため全国各地で絵解きをしていた熊野比丘尼を、新宮市観光ガイドの会会員が比丘尼に扮して実演します。

時間 午前11時～12時、午後1時～2時  
参加料 無料  
定員 30名程度(事前申込不要)  
場所 展示棟ロビー  
講師 熊野比丘尼 絵解き 新宮市観光ガイドの会会員



10/14(日) 映画「青い山脈」/上映会  
ある小さな町の女子高生に届いた偽のラブレターを巡り学生たちや周囲の大人が巻き起こす騒動を描いた青春映画「青い山脈」(今井正監督/1949年公開)を上映します。

時間 午後1時～4時00分(開場:午後0時30分)  
参加料 無料  
定員 80名(要申込・先着順)  
場所 映像ホール  
解説 田中 忍氏(三重映画フェスティバル実行委員会会長)



12/1(土) 講演会 **池田 淳 講演会 一本だたら ～伯母峰の妖怪伝説～**  
奈良県の南部、上北山村の伯母峰に伝わる妖怪、「一本だたら」の伝説に迫ります。

時間 午後1時半～午後3時  
参加料 無料  
定員 80名(要申込・先着順)  
場所 映像ホール  
講師 池田 淳氏(吉野町教育委員会事務局兼吉野歴史資料館長)



12/16(日) 講演会 **西国第一の難所 八鬼山道を紐解く**  
「西国第一の難所」と呼ばれる熊野参詣道八鬼山道には16世紀末に造立された石造物が現存し、県有形民俗文化財に指定されています。これらの石造物が持つ歴史的意義を紐解くことで、熊野参詣道伊勢路の価値を再認識していただきます。

時間 午後1時30分～3時  
参加料 無料  
定員 80名(要申込・先着順)  
場所 映像ホール  
講師 伊藤 裕偉氏(三重県教育委員会)



体験教室

10/21(日) **太古の地球のメッセージを探せ! 化石発掘体験**  
約1,700万年前の地殻変動で海底が隆起してできた野浦層を観察し、リュウキュウハゴロモガイなどの二枚貝の化石をタガネなどの道具を使い発掘します。何気なく見ている石から過去の地球のメッセージを探そう。

時間 午前9時～11時30分  
参加料 500円(保険料、資料代含む)  
定員 20名(要申込・応募多数の場合抽選)  
対象 小・中学生(保護者同伴)  
場所 尾鷲市行野浦  
講師 二村 直司氏(尾鷲市教育委員会教育長)  
●詳細は熊野古道センターまでお問い合わせください。  
雨天の場合は中止



10/21(日) **晩秋のアジを楽しむ**  
東紀州の特産品や食材の魅力を知っていただくための料理教室です。今年度第4回の教室では、尾鷲で水揚げされるアジを使用します。

時間 午前10時～午後1時  
参加料 2,000円  
定員 24名(要申込・応募多数の場合抽選)  
場所 体験学習室  
講師 村林 新吾氏(相可高校食物調理科教師)、相可高校生徒(調理クラブ)



10/28(日) **伝統体験 わらざうりを作って昔の暮らしを体験しよう**  
わらを叩き柔らかくして加工するという昔ながらの方法でわらざうりを編みます。自然のものを無駄なく利用していた昔の暮らしを体感していただきます。

時間 午前9時～正午  
参加料 1,000円(材料費込)  
定員 20名(要申込・応募多数の場合抽選)  
場所 体験学習室  
講師 南 千工代氏、地元のおかあさんたち



わくわく **日曜ものづくり体験教室** **事前申込不要!**  
東紀州で活躍中の木工職人や工芸家を講師に、毎週日曜日に開催している体験教室です。事前申込不要で、小さなお子様から大人まで気軽に楽しんで頂けます。

時間 午後1時～3時受付  
参加料 200円～(※体験によって異なります)  
場所 交流棟ロビー  
講師 大形 弥生氏、村川 実氏、竹内 健悟氏、中井 智章氏、吉田 誠人氏、熊野古道センター職員



新しい古道の歩き方 **11/4(日) 北山索道 古和谷駅舎跡を訪ねて**  
大正時代、尾鷲市と上北山村(奈良県)を結んでいた架空索道、「北山索道」の古和谷駅舎跡を探索するツアーを開催します。

時間 午前8時～午後4時 予定  
参加料 500円(保険料含む)  
定員 20名(要申込・応募多数の場合抽選)  
場所 尾鷲市南浦(又川支流古和谷)  
案内人 橋本 博(熊野古道センター職員)



12/8(土) **鉦山の 遺構探訪 旧紀和鉦山坑道 歩き**  
鉦山の町として半世紀近く栄えた紀和の町に残る鉦山遺構を訪ねます。普段は非公開の坑道や選鉱場跡を訪ね、採掘当時の様子を体感していただきます。

時間 午前10時～午後3時  
参加料 500円(保険料・トロッコ乗車料・資料館入場料込み)  
定員 20名(要申込・応募多数の場合抽選)  
場所 熊野市紀和町飯屋  
案内人 匠 伸祐氏(石原鉱産株式会社紀和事業所長)  
持ち物 ヘッドライト、弁当、飲料、長靴など防水の靴、雨具 など

